

# 経営のヒント

9月8日に千葉市若葉区の県道でトレーラが横転し、信号待ちをしていた軽乗用車が下敷きになって3人が死亡するという悲惨な事故が起きた。ネットでニュースを見た瞬間、驚いてすぐに写真を拡大してみた。鉄筋のくずが散乱していたからだ。拡大映像で横転したトレーラが白ナンバーであることが確認できた。リサイクル会社の車両だった。偶然だが事故の5日前に、鉄や非鉄金属のスクラップをトレーラで運んでいる都内の中小事業者を取材していた。同社の所在地は都内でも千葉県に近い。また、東京以外にも千葉、埼玉、群馬の3県で収集運搬をしている。過積載などしないはずだが「まさか!」と心配になったのである。

その事業者が電話

で聞いたところ、事

故を起こしたリサイ

クル会社とは「ずつ

と以前に少しだけ取

り引きがあったが、

ここ何年間も付き合

いはない」とのこと

だった。また、事故

が起きた交差点は

物流ジャーナリスト 森田 富士夫

## 過積載トレーラ横転事故と所感

第217回

「手前がカーブになっていて、さらに下り坂で事故が起きやすい場所なので、当社のドライバーなら安全に注意して運転する」という。下り坂で加速がつきやす

く、T字路なので直進でき

ない。しかも

最大積載量が

29トに対して

37トも積んだ

過積載なの

で、十分に減

速できずに左

折した可能性

がある。

すると事故

から3日後の

昼ごろ、ある

キー局の報道

番組スタッフ

からコンタク

トがあった。

翌朝の番組で

当該事故と過

積載の問題を取り上げるの

で、今夜中にコメントを取

録したいというオファーだ。

それなら、「この際『白緑』

をハッキリさせておこう」

と思つた。

たトレーラは運送会社のトラックではない」と説明した。過積載についても「ちゃんとした運送会社は法令遵守に努力しており、無茶な過積載はしない」と話した。本来なら「運送会社の車両は絶対に過積載をしない」と断言したいところだ。その点、隔靴搔痒の観はあるが、精いっぱい表現である。

だが、案の定いづれもカッ

ト。テレビでは、営業車と自

家用車の違いや「ちゃんとし

た運送会社」などの表現は必

要ない。「白か黒か」「善か悪

か」が単純明瞭でないと視聴

者が好まないからだ。結局、

採用されたのは「長時間労働

で低賃金」の部分だけで、そ

のために「人手不足」で「過

積載」が後を絶たない、とい

うストーリー仕立てだった。

業界イメージの向上にはP

Rも必要だ。だがイメージは

実体の反映に過ぎない。今回

の過積載と事故の場合でも、

説明なしで一般の人たちから

「営業車ではない」と受け止

められるような実体にならない

いと、業界イメージの刷新は

難しい。